

伝えよう囃子の音を後世に広げよう囃子の音で地域の輪

飯南町赤来地区公民館協議会

1 赤来地区公民館協議会の概要

赤来地区公民館協議会は、飯南町の南に位置し、広島県境に接する赤名、谷、来島の三公民館で、世帯数1,160戸、人口3,150人規模の中に於いて、それぞれ活動を展開している。

協議会では、地域の連帯と健康づくりを目的としたスポーツ活動、ぼたん祭り行事で囃子出演など連携し取り組んでいる。



2 事業の概要

(1) はじめに

- ① 実践事業名 囃子笛伝承教室
- ② 実証テーマ 伝えよう囃子の音を後世に、広げよう囃子の音で地域の輪
- ③ 実証事業のねらい

地域には古くから、盆踊り、花田植え（田植えばやし）、牛供養、囃子など稲作を中心とした季節ごとの行事が受け継がれて来た。

しかし、牛供養は昭和の10年頃より、花田植えの田植えばやしは昭和の中頃より姿を消し、現在では「盆踊り」と秋の収穫を祝う「囃子」行事のみとなった。

なかでも、「囃子」と「田植えばやし」の奏楽が共通で、笛の音を基本として受け継がれて来たこの行事が、今では指導者の高齢化による減少で、この継承が危ぶまれる現状に、協議会が中心となり保存会及び地域住民が一体となって、奏楽の伝承、楽調の統一化を図る「囃子笛伝承教室」事業を計画する。また、この伝承教室を契機として、花田植え復興への手掛かりに繋げたい。



(2) 具体的な取り組み

- ① 現存する地域の保存会及び奏楽（笛）経験者、諸団体、サークルなどの協力を得、教室の立ち上げを行う。

平成22年8月伝承教室開催に10名程の指導者（経験者）による打ち合わせ会。

- ② 9月25日より開講予定で、呼びかけ、小中学生主体に27名参加申込みあり。



- ③ 初回の教室に於いて、小中学生主体での指導に、基礎重視との意向で独自の練習機材にCD活用急務との意向に基づき、指の操作、息の注ぎ方を中心としたCD収録を9月29日行う。

- ④ 10月2日より、指導者9名で交互による囃子笛教室を年度内5回開催。



- ⑤ この期中10月末より11月末までの間に於いて、地域内6ヶ所の神社例祭への奉納行事へ笛奏楽出演する。



- ⑥ 田植えばやし教室に指導者1名と教材用CDを活用、女性6名により2回の伝承教室を開講する。
- ⑦ 10月31日、地区中学校文化祭一年生を対象に、PTA協力で菅笠の花づくりと、囃子行事の発表を12名より行う。併せて神楽保存会の指導により2演目奥飯石神楽も発表。



- ⑧ 保存会より太鼓、鼓貸し出しを協議会への要請を受け、本年度より実施、9月より11月の間、太鼓76回、鼓46回計122回を見るなど伝承事業を含め、協議会活動に対する地域での理解を深める。
- ⑨ 地域内学校との連携を図り、伝承事業を通じ、ふるさと教育の実践に、児童生徒との関わりを深め、伝承者養成に努める。
- ⑩ 囃子、田植えばやしの収録化による保存と教材での活用。
- ⑪ 事業を通じ、菅笠用花かざり、神事花等関連する衣装、用具など技や物づくりを学ぶ。

3 事業の成果と課題

- (1) 今回の事業には、地域内より多くの意見を頂くなど、この事業への関心を得ることが出来た。今後引き続き期待に応える長期的活動に努めたい。
- (2) 伝承教室参加者が小中学生主体となったが、教室への参加に保護者同伴が見られ、共に学ぶ場が提供出来た。
- (3) 協議会事業での活動により、この取り組みに対して従来に増し連携が図られるなど更に絆を深めることが出来た。
- (4) 子どもへの伝承教室呼びかけに対し学校当局より協力頂くなど、予想以上の成果を得、特に中学校では朝の全校朝礼での呼びかけに時間を設けて頂く他、小学校では取り絡めを頂くなどの理解を得る。
- (5) 田植えばやしでの学習に際し、老人クラブを始め地域の保存会より、今後の指導への協力を得るなど、次への学習に繋がる事が出来た。
- (6) 受講者の主体が小中学生主体で基礎指導に時間を労するも、指導者の熱意により予定した課程を終える事が出来た。今後独自での練習にCD教材活用などレベルアップへの取り組みを行う。
- (7) 今回教室での指導に際し、受講者の習熟度に準じた指導対応など今後の課題である。
- (8) 伝承事業開講に多数の地域講師を要するなど、日程調整等、課題はあるものの引き続き講座の開設に努める。

4 今後の方向性

依然として過疎化の進む中で始まった事業に、多くの住民より関心を得ることが出来たものの、目的とする地域住民との連帯感や地域力の醸成、みんなの意欲と意識づくりまでには至らなかった。

しかし、学習を通じ、住民よりの意識の共有化を図り、行事の伝承と復興の手掛かりを得た事は大きな収穫であった。

今後は、この事業を通じ、集落機能の低下に努め地域と一体となり、役割を果たしたい。

【学習の成果の活用】

- ① 福祉施設利用者を始め低年齢層（保育所等）姉妹都市などでの交流活用。
- ② ふるさと教育を始めとする、学校での取り組み。
- ③ 高齢者との関わり、奏楽の伝承に併せこれ等にまつわる行事や技を始め装具、物づくりの継承に努める。
- ④ 地域内二つの閉校施設での活用。
- ⑤ 学習への一般参加者の呼びかけと、習熟度に応じた指導を講じる。
- ⑥ 奏楽のCD化と行事の調整、記録等の保存に努める。
- ⑦ 田植えばやしと花田植え行事の学習を通じ将来その行事の復興を図りたい。